

#### 4：シラカバ花粉症に合併した遷延する咳嗽の検討

大道内科・呼吸器科クリニック呼吸器科 大道 光秀  
札幌医大第三内科 田中 裕士、阿部 庄作

【目的】北海道において平成16年の春～初夏にかけてシラカバ花粉の大量飛散が見られ、それに伴い、シラカバ花粉症の一部で、通常の鎮咳剤では改善しない遷延する咳嗽症例の増加が見られた。これらの患者について臨床的に検討したので報告する。

【対象】平成16年3月から7月までに2週間以上の咳嗽のため当院を受診し、花粉症の症状とシラカバ特異的IgE抗体が陽性であった71例（男性25例、女性46例、平均年齢 $33.9 \pm 8.8$ 歳）を対象とした。

【結果】15%の症例で、1秒率の低下などから気管支喘息と診断した。22.5%の症例で肺機能上、末梢気道障害を認め、62.5%の症例では肺機能は正常であった。喘息と診断されなかった症例において、H1拮抗薬は43%の症例で有効であったが、53%の症例で効果不十分のため、吸入ステロイドの使用を必要とした。吸入ステロイド追加後、全例で咳嗽の改善を認めた。

【結論】シラカバ花粉症での咳嗽を有する症例では、H1拮抗薬の効果が低く、吸入ステロイドの使用を必要とする症例が多かった。